

伝統を次の世代へ

いわさき小学校剣舞引き継ぎ会

いわさき小学校剣舞引き継ぎ会は7日、同校で行われました。引き継ぎ会には2～6年生と、指導にあたった岩崎鬼剣舞保存会の和田國男会長や煤孫ひな子剣舞の武田正雄会長らが出席。6年生が鬼剣舞「一番庭」を4・5年生が「刀剣舞の狂い」、2・3年生がひなこ剣舞を披露しました。6年生代表の及川蒼馬君から5年生代表の及川和樹君に鬼剣舞で使用する刀の引き継ぎが行われ、及川蒼馬君が後輩に「元氣よく迫力ある踊りをしてほしい」とエールを送りました。

保存会の皆さんや先生に感謝の気持ちを込めて一番庭を舞う6年生



ウーマンPR大使に任命され、はんでんを手渡される須永社長(右)

ふるさと納税で地域を元気に

ふるさと納税まるわかりイベントin北上

ふるさと納税まるわかりイベントin北上は2月26日、さくらホールで開催されました。同イベントは市と西和賀町、北上信用金庫が主催。事例発表などが行われたほか、ふるさと納税サイトを起ち上げた(株)トラストバンクの須永珠代代表取締役社長が講演しました。両市町のふるさと納税をPRする北上市・西和賀町ウーマンPR大使に任命された須永社長は「北上市と西和賀町はおもてなしが素晴らしい。頑張っ^てPRしたい」と話していました。

藤根から世界へ平和を発信

藤根自治振興会が岩手日日文化賞受賞

藤根自治振興会は岩手日日文化賞を受賞し2月29日に市長報告を行いました。

同会は北上平和記念展示館の運営に地区民が携わり、毎年夏に行う「平和祈念のつどい」で戦争体験者を講師に迎え戦争を語り継ぐなど、平和活動への取り組みが高く評価されました。同会の加藤健悦会長は「活動が評価され嬉しく思う。より一層地域・住民一丸となって平和の発信をしていきたい」と今後の活動への決意を新たにしていました。

高橋市長に受賞の報告を行った加藤会長



パネルディスカッションであじさい都市の説明を行う高橋北上市長(右)

魅力ある地域を目指して

「あじさい都市」きたかみまち育てフォーラム

「あじさい都市」きたかみまち育てフォーラムは2月28日、日本現代詩歌文学館で開催されました。景観賞表彰式などが行われたほか、情報提供では煤孫1区自治会が「景観整備を通じた地域づくり」と題し発表。その後、パネルディスカッションが行われ弘前大学の北原啓司教授をコーディネーターに、高橋大横手市長と高橋敏彦市長が「まち育て」をテーマに討論を行いました。両市長ともに「市民が地元を誇りを持ち、魅力を発信できる体制を作りたい」と話していました。

ストレスと付き合うコツを学ぶ

こころの健康ミニ講話

こころの健康ミニ講話in図書館は8日、中央図書館で行われました。毎年3月は自殺者数が最も多く、国が自殺対策強化月間と定めており、取り組みの一環として健康増進課と図書館が同講話を開催。市民11人が参加し、うつへの理解を深め、ストレス対処のコツを学びました。講話では自身や身近な人の心のサインに気づいた時の対応の仕方などを知るための健康劇が行われたほか、リラクゼーション体験などを実施。講話終了後は保健師が希望者に個別相談を行いました。

リラックス方法
を体験する
皆さんの
会場の



披露された
プロジェクト
マッピング
に見入る
参加者

プロジェクトマッピングお披露目 北上コンピュータ・アカデミーが認定校に

北上コンピュータ・アカデミーは、(一財)最先端表現技術利用推進協会が認定するプロジェクトマッピングを適切に指導できる教育機関として全国初の認定を受けました。同校は市の依頼を受け、27年度の卒業制作として国見山廃寺跡をPRするプロジェクトマッピングを制作。2日にお披露目会が行われ、高橋市長らに披露しました。制作リーダーの千田航平さんは「遅くまで残って取り組んできたので、完成したときは感動があった」と話していました。

宝くじ助成で地域を元気に 更木四区公民館落成式

更木地区の更木四区公民館落成式は13日、同公民館(千田佐悦館長)で行われました。式では石名畑神楽による神楽や、南部流更木鹿踊による「礼庭」が奉納され、新しい公民館の落成を祝いました。

同公民館は昭和34年ころに譲り受けた民家を使用していましたが、老朽化が著しいため、(一財)自治総合センターの宝くじ助成(コミュニティセンター助成事業)を活用し整備しました。千田館長は「地域活動を活発にし、交流を深めていきたい」と話していました。

新築された
公民館の前で
「礼庭」を
奉納する
南部流更木
鹿踊



地域住民と
消防団が
協力し、
土のう積
みの訓練
を行いました

住民参加の訓練を実施 春季災害防御訓練

春季災害防御訓練は6日、川岸地内一帯で行われました。同訓練は「平成28年春季全国火災予防運動」の一環として実施したもので、消防団、地域住民など約500人が参加しました。訓練は大雨による川岸地区の浸水、漏電による建物火災を想定。放水訓練などが行われたほか、地域住民が参加し土のう作成、土のう積み、応急手当訓練が行われました。参加した高橋和子さん(川岸)は「ラップなど身近なものを使った応急処置を学ぶことができた」と話していました。